



な美術作品に刺激を受けながら、表現力のセンスを磨きながら成長していきます。これが20年間、中高での美術の最高峰に位置し続ける大きな原動力になっています。

美術系への進学指導

このようなレベルにあるので、美術系の大学に進学を希望する生徒が毎年10人前後いますが、そのための指導体制も万全です。最近の美大の入試では目の前の与えられたモチーフを描かせる従来のスタイルから、そこに存在しないものを想像させて描かせるスタイルに変わりつつあります。このときに有効になるのは、いかに数多くさまざまなテーマで描いてきているか、です。それまでの6年間の中で数多くの多種多様なモチーフを経験していることが生きてくるのです。



田代 淳一（たしろ じゅんいち）

茗溪学園中学校高等学校 教務部長・教員（化学）



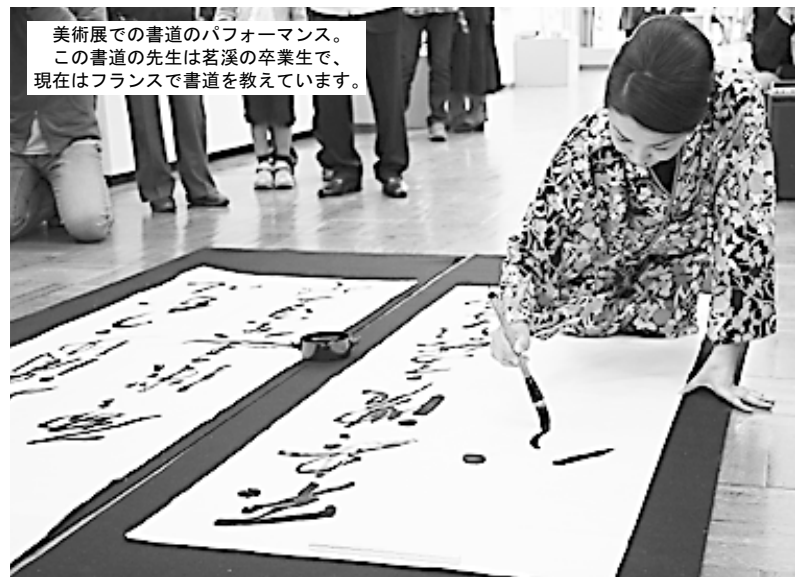
茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。

「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつけ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。

海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。

表現力という言葉や身体を用いての表現が注目される傾向にありますが、ひとりの人間の中の表現力とはトータルなものです。美術で気づき身につけてきた表現力がその後様々な場面で多様な Study Skills の基礎となっている例は枚挙に暇がありません。写真-1は高校2年で全日本学生美術展で審査員特別賞を受賞したTさんの作品ですが、Tさんの進学先は京都大学工学部地球工学科です。

東大助教授伊東乾氏の著作『超東大脳の育て方』（PHP研究所）に東大で伸びる学生の代表として紹介されているSさんも中学時代から全日本学生美術展に入賞を続けていました。写真-2はSさんの作品で、上述「自分を描く」の作品です。



美術展での書道のパフォーマンス。
この書道の先生は茗溪の卒業生で、
現在はフランスで書道を教えています。

今回の記事は本校美術科主任で自身も日本画家の水見剛先生の話和田代が構成し直したものです。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1

TEL. 029(851)6611 (代) FAX. 029(851)5455

www.meikei.ac.jp



茗溪で、スタディ・スキルを身につけさせるのに、高校の美術の授業がどんな役割を果たしているのかの報告です。

美術の授業の「見る」スキルのトレーニングが、理科や数学のような一見関わりのないような学習科目でも大きな力を発揮することを、私は体験を通して知っています。「大学院でダムの実験をしていた時に、茗溪の『見る』スキルが身につけていたら、違う人生が・・・」と、心から思います。

田代先生、また勉強（後悔）させていただきました。感謝！？



2回にわたり、ご紹介した生徒作品のカラーの写真原稿を、田代先生からご提供いただきました。しかし、編集の都合で「白黒」での掲載となっていました。いつか機会を見つけて、これらのすばらしい作品をフルカラーで読者の皆様にお届けしたいと思っています。それまで、作者の皆様、ご容赦を！